

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミSSION・ポリシー

【教育目標】

大阪大学の教育目標を受けて、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期3年だけの博士課程）では、「子どものこころの障害」に科学的知識をもって対応できる人材を養成するため、医学、心理学、保健学/看護学、教育学などの学際領域を研究対象とし、異なる出身履歴を持つ学生が共に学び研究することにより、真に学際的で現在の社会の要求に応える研究者、指導者層、高度専門家の育成を目指しています。

具体的には、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学において「子どものこころの課題」に関連する異なった専門領域における教員、研究者が専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて異なった背景を持つ学生を教育します。このことにより、既存の領域を超えた新しい研究領域である「子どものこころと脳発達学」の研究者と、「子どものこころと脳発達とその障害」の理解と対応を協働して進めていく密接なネットワークを形成し、真に学際的で現在の社会の要求に応えうる指導者層や高度専門家の育成を目指します。

【ディプロマ・ポリシー】

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期3年だけの博士課程）では、「子どものこころと脳発達及びその障害」の科学的知識を身につけた学生に、以下による修了要件に基づき審査等を行っています。なお、授与する学位は「博士（小児発達学）」です。

- （１）修了要件は、本研究科に3年以上在学し、授業科目につき30単位以上修得し、研究指導を受け、かつ、本研究科が行う博士論文の審査に合格すること。
- （２）博士論文は、研究科が刊行する機関誌又は査読付きの学術誌等に掲載されたものであって、申請者が筆頭著者であり、共著者が学位申請（予定）していないものに限る。
- （３）必要となる論文の本数は、英文の場合は1本、和文の場合は2本とし、研究科入学後の業績によるものとする。
- （４）特に優れた研究業績を挙げた者と教授会において認められた場合には、2年での修了を可としている。
- （５）早期修了に係る博士論文は、インパクトファクターの値が5以上の学術誌に掲載されたものであって、申請者が筆頭著者であり、共著者が学位申請（予定）していないものに限る。

【カリキュラム・ポリシー】

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期３年のみの博士課程）では、異なるバックグラウンドを持つ学生に文理融合プラットフォームによる教育を実施し、幅広い視野と基礎知識を身につけ、また、専攻分野に関連する諸領域の学識及び基礎的研究技術を修得できるよう指導を行います。

授業は、基礎学力を担保するための講義形式の導入科目、支援や研究の現場において実践的学習を行う演習科目、論文作成を目指す高度専門科目（研究指導）からなり、他大学で開講される導入科目はTV会議システムにて受講し、さらに演習科目では開講される大学へ移動して受講することにより、非常に広汎な知識の修得を目指します。

（１）導入科目（配当年次D１）

異なるバックグラウンドを持つ学生に対して、D２～D３に行う演習科目や高度専門科目における基礎学力を担保するために講義形式をD１に設定します（５科目１０単位以上修得必要）。

（２）演習科目（配当年次D２）

実際に開講される大学に赴き受講し、また、高度臨床・研究の実践の場やカンファレンスにも参加します（４科目８単位以上修得必要）。

（３）高度専門科目（配当年次D２～D３）

各講座の指導教員の下で、定期的に講座のゼミナールに出席して専門知識を深めると同時に、選択した研究課題について臨床・基礎研究を行って、博士論文をまとめます（１２単位）。

また、５大学合同の研究発表会への出席・発表が単位認定に必須です。

【アドミッション・ポリシー】

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期３年のみの博士課程）では、強い学習意欲と優れた学力を有し、かつ、子どものこころの課題の解決に対して強い使命感と真摯な姿勢を持った以下のような人材を求めています。

（１）子どものこころの課題に関して、明確な目的意識を持ち、科学的な対処法の発見により我が国の未来に貢献しようという高い志を持つ人。

（２）経験則にとらわれず、異なる背景の専門家に対してもオープンな姿勢を保ち、新たな科学的視点を持つことを希求する人。

（３）生涯を通じて学習意欲を持続し、自立的・意欲的な問題解決能力を有する人。

（４）問題を抱える子どもの支援ネットワークのリーダーになるべく、協調性・柔軟性のある思考ができ、社会性を備え、社会的弱者に対して深い共感性と洞察力をもって接することができる人。

また、入学選抜の基本方針として、統一した入学試験を以下により行います。

（１）筆記試験

外国語（英語）の筆記試験により、学術論文等を読み解く読解力と、学位論文作成に必要な表現力、論理的思考力等を考査します。

（２）面接試験

将来、どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、また、同問題に関する意欲、熱意、将来性を評価すると同時に、標準修業年限内での学位論文の作成の可能性についても審査します。